

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第494号
2024年
2月16日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面・高校教育シンポジウム
上野千鶴子講演
・県評女性部初春のつどい
竹信三恵子講演



人事評価結果を昇給にも活用
~2024年1月から実施~

好「に該当すると8号昇給させることができま...
す。今までは給料に差をつけることに反対する組合を中心とする運動で、一定の年数の経験と規定の号給に達すれば全員一律に適用させ、6号〜8号昇給させる制度にしてきました。(表1)

Table 1: Current system. Columns: Graduation experience years, Salary grade, Special name. Rows: 3 years (6), 9 years (6), 10 years (6), 13 years (8), 15 years (7), 24 years (5).

従来制度を残しつつ粘り強く反対する組合の主張もあり、大卒経験10年までは「育成期間」として従来のまま、経験3年、9年、10年で「昇給区分B」として6号昇給を継続。昇給号給と回数減りますが、15年、24年に達した時の特別昇給も従来の該当者全員を昇給させる制度は維持させることができました。

昇給に差をつける仕組み前年の前期・後期の人事評価結果で第1〜4グループに分けま...
す。前期・後期がS、Aだと第1、A、A、S、Bなら第2、A、Bは第3、B、Bを第4グループとします。(表3)

Table 2: New system. Columns: Graduation experience years, Salary grade, Change point. Rows: 3 years (6), 9 years (6), 10 years (6), 13 years (8), 15 years (6), 24 years (6).

Table 3: Grouping by evaluation results. Columns: Previous year's result, Post-year evaluation (S, A, B), Group. Rows: S, A, B for both previous and current years.

Table 4: Promotion zone application rates by group. Columns: Group, Promotion zone, Rate. Rows: Group 1-4, Zones A (5%), B (2.0%), C.

主張

教職員の長時間過密労働と「教育に穴があく」(教職員未配置)の深刻な実態が、「このままでは学校がもたない」危機的な状況に追い込んでいます。子どもたちは、ゆとりなく働いている教師をみて、質問や悩み事の相談をためらいます。文科省の「学校における働き方改革」では、状況の改善につながっていません。

教職員がいきいきと働ける条件を整えることは、子どもたちの教育条件を整えることであり、学ぶ権利を保障することです。いま中教審で「令和の日本型学校教育」を担う質の高

い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について「審議が始まっていますが、ゆとりある教育現場をつくるのが急務です。全教は、7つの提言をおこなっています。

配置 提言2 少人数学級の推進 ①小学校35人学級を前倒しさせるとともに中学校・高校でも早期の実現を ②20人学級を展望した少人数学級を推進 ③特別支援学級の1クラス8人を6人に、2学年以内の

状況調査の廃止 ④教員評価の賃金リンクを見直し、教職員の自主的自律的な働き方を保障 提言4 給特法の改正 ①「在校等時間」をはじめ、学校教育に必要な業務を「労働時間」として法的に整理 ②

衛生委員会の設置 提言6 部活動の見直しを ①部活動への強制加入や「全員顧問制」、顧問押しつけがないの反映を

みえ ①教育課程や学校のあり方について、各校の教職員の民主的な議論を重視すること ②中央教育審議会や教育委員会等が設ける審議会に、教職員や教職員組合の代表の参加を ③公務員の労働基本

権を回復し、現場の声の反映を 静岡県では、2022年度の時間外在校等時間、高校では平均4458時間でした。高校教師は4115人、か

このままでは学校がもちません

間内で授業準備やすべての業務が完了できる時間の確保 ②教員の授業持ち時間数に上限を設定 ③「総額裁量制」「定数崩し」を廃止し、正規教職員の配置を原則とする教職員定数改善を ④SCやSSW支援員など、必要な専門職員をすべての学校に

複式学級編制に 提言3 競争主義的な教育政策の見直しを ①学習指導要領を見直し、教育内容の精選と総授業時数の削減 ②目の前の子どもたちに責任をもつ、各学校の教育課程編成権の尊重 ③学校教育を歪めている

法的拘束力をもつて整備しよう、必要な部活動指導員を配置 ②地域のスポーツ、文化施設の整備・拡充を図り、適切な指導員の養成確保に国が責任をもつこと ③

体制の確立 働きやすい職場環境や悩みを抱える教職員を孤立させずサポートできる体制を 提言7 教職員の声を

982という数字が出てきます。大雑把に言うると、約1000人が不足です。これも一つの根拠に定数増を求めることができます。

必要と認めつつ、生涯賃金に差をつけない運用を強く要求します。

「昇給の時期による差も埋める」「昇給抑制となる56歳以上も事情を配慮して昇給させる」など賃金に差がつかない制度設計を求めています。明確な保証は今のところありません。差をつけることで意欲

を高めようとするのは逆効果、喜びや好奇心など内発的動機が必要であることは学問的にも主張されています。同僚性を破壊し、公務職場特に助け合い支え合うことが必要な教育現場にはふさわしくありません。静岡高教組は、制度そのものの廃止を求めつつ、生涯賃金に差をつけない運用を強く要求します。

視座

高校二年の国語の授業で、暗唱の課題があったんです。祇園精舎の鐘の音...
...、そう平家物語の冒頭。諸行無常の響きあり、など今も思い出しています。最近、盤石に見えていたものが次々に崩れる場面が次々あうので、よけい頻繁に。文豪の川端康成は文章を書くときに、暗唱している古典の名文のリズムが聞こえてくると言ったそうです。もちろんその域には程遠いのですが、先生には感謝しています。▼記憶とは不思議なもの。たとえば旅行では、電車、ホテルの部屋番号などを記憶します。これらを忘れたら大変。そして、いろんな人や景色に出会い感動します。その後、部屋番号などはすっかり忘れませんが、ずっと旅の記憶に残ります。▼脳は、とても賢いそうです。省エネ志向なんです。アイデアがひらめいたらすぐメモすべし！なぜなら、もしメモしないうで行動にも移さなかつたら、この人にはアイデアは不要と脳が判断して、もうひらめかなくなるんだとか。はい、メモメモ。▼旅行の話に戻ると、脳はホテルの部屋番号は不要と判断して記憶を消去するんです。脳内メモリー節約のために。そう、だから英単語の小テストを毎週のように行っても、多くの生徒が忘れてたんです。不合格課題回避のための記憶は、目的が達成されたら脳がそれを消去していったのでしよう。積んでは崩れる川原の石積みのように、旅の思い出のような授業、定年までにできるといいのですが、その先生の授業は何十年経っても忘れていません。ちなみに組合に入ったのもその先生の影響なんです。一言も誘われたことはありませんでした。

# 「誰も答えたことのない 問いを立ててごらん」

## 全体講演 上野千鶴子さん 高校教育シンポジウム in 宮城



1月27日と28日に宮城県松島町で開催された「高校教育シンポジウム」に本県から3名で参加しました。他県の方とたくさん語りながら、豊かに学び交流をしました。若い同僚と参加したのが何よりうれしいことです。感想も寄せてくれました。



全体講演は上野千鶴子さんの「学校教育とジェンダー」。ジェンダー研究の第一人者の講演を初めて(オンラインですが)聞く機会を得ました。盛りだくさんの内容でしたが、流暢な語り口で時には(オジサン)教師に対する辛口コメントもあり、あつという間に時間が過ぎました。

「君たちはどう生きるか」は男子向き。ルソーの「エミール」にも最後は女子に当てはまらないとあり、女子は男子を支える者として啞然とした。それに対して私は少し前にこの新書「女子は…」(岩波ジュニア新書)を書いたが、我ながら名著だと思ふ(笑)。

「2020年までの小泉政権は分野における指導的地位の女性の割合を30%に」と202030の目標を掲げた。なぜ50%じゃないのか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

男女平等法制は整備されてきたが、罰則規定がない。また90年代の労働法制で雇用の規制緩和が進む。そのルールからトクをするか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「君たちはどう生きるか」は男子向き。ルソーの「エミール」にも最後は女子に当てはまらないとあり、女子は男子を支える者として啞然とした。それに対して私は少し前にこの新書「女子は…」(岩波ジュニア新書)を書いたが、我ながら名著だと思ふ(笑)。

「2020年までの小泉政権は分野における指導的地位の女性の割合を30%に」と202030の目標を掲げた。なぜ50%じゃないのか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

男女平等法制は整備されてきたが、罰則規定がない。また90年代の労働法制で雇用の規制緩和が進む。そのルールからトクをするか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

男女平等法制は整備されてきたが、罰則規定がない。また90年代の労働法制で雇用の規制緩和が進む。そのルールからトクをするか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。



「君たちはどう生きるか」は男子向き。ルソーの「エミール」にも最後は女子に当てはまらないとあり、女子は男子を支える者として啞然とした。それに対して私は少し前にこの新書「女子は…」(岩波ジュニア新書)を書いたが、我ながら名著だと思ふ(笑)。

「2020年までの小泉政権は分野における指導的地位の女性の割合を30%に」と202030の目標を掲げた。なぜ50%じゃないのか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

男女平等法制は整備されてきたが、罰則規定がない。また90年代の労働法制で雇用の規制緩和が進む。そのルールからトクをするか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

男女平等法制は整備されてきたが、罰則規定がない。また90年代の労働法制で雇用の規制緩和が進む。そのルールからトクをするか。男女平等先進国で、強制力あるクォータ制抜きで実現した国はほとんどない。政府は目標を断念し「20年代のできるだけ早いうちに」と変更。

「高学歴になるほど専業主婦が多い」は80年代までの話。日本は女性が仕事をやめなくなり、M字曲線を脱したが、妻の就労が must になったのは、それがないとやっていけないから。かくして家族形成コストが上昇し、非婚晩婚化が進む。「男が家族を養うべき」という保守的な結婚観の持ち主ほど結婚確率は低い。

## 県評女性部2024初春のついでに 竹信三恵子さんの講演会



2月4日(日)労政会館にて県評女性部「初春のついで」が開催され、ジャーナリストの竹信三恵子さんが「女性不況から考えるこれからの闘い方ーケアする性の労働運動とはー」と題して講演をしました。

2008年のリーマンショックでは製造業が大打撃を受け「男性不況」ともいわれました。コロナ禍では女性労働者が多いサービス業等の接触

型産業が最も強く影響を受け「女性不況」と呼ばれ、国連でも「コロナは単なる健康問題ではなく、女性が低賃金で様々な役割を担うことで動いている公共・民間機能の欠陥を如実に露呈させた」とメッセージを發しました。

日本でもコロナ禍で仕事がなく、屋根のあるバス停で過ごす女性ホームレスを、男性が邪魔だから殺したというセンセーショナルな事件がありました。「女性不況」という言葉があまり知られていないのはなぜか?女性労働者が首切りされても家

は路頭に迷わない、補助的労働だろという見下しがいまだにあつてマスコミの報道も少ないから、コロナ禍の女性労働者の苦悩と奮闘を書き残さないとなかったことにされてしまうとの念で竹信さんは「女性不況サバイバル」(岩波新書)を書いたそうです。

非正規雇用の7割は女性で非正規問題は女性問題。有期雇用で声を上げにくい(モノ言わない)人は雇用を切るため劣悪な労働環境や低賃金が放置されたままです。また女性が多く従事するケア労働者(保育介

護)の月給は一般労働者の賃金より約7万円低いのです(専門職にもかかわらず)。竹信さんの教え子が生保に「正社員」で入社したが、歩合制で月の手取りでは生計が成り立たず夜はキャバクラで働くという現実もあるそうです。

男性の賃金も下がってしまった今、妻の賃金は家計補助でなく生計を維持するためになくてはならない収入になっていきます。それなのに「コロナ禍で非正規女性は調整弁としてシフトを減らされたり解雇されたりしました。それに異議を唱え労働組合に相談し

進む。そのルールからトクをするのは…妻の社会保険料を負担しなくてすむ夫、みなし専業主婦の社会保険料を負担しなくてすむ使用者、就労支援をする主婦パートを低賃金に抑えることができる使用者など、「男性稼ぎ主モデル」のオジサンばかり。妻は低賃金・不安定雇用・低年金に苦しむ。

男女雇用機会均等法と派遣事業法と3号被保険者制度のできた1985年は「女性の分断・貧困元年」と言える。自己決定・自己責任のネオ・リベラリズムがはびこり、「産め・育てろ・働け」と女性の低賃金・労働強化。そして、アンダークラス1000万人の格差社会。

あなたたちが出ていく社会はどんな社会か 学生たちにこう語っている。ものづくり社会から情報社会に変わり、情報生産性の高い人材が育成される。しかし選抜方式に問題がある。正答率を競う選考で生まれるのは「クイズ王」ばかり。ありものの知ではなく知を生み出す知。「メタ知識」を身につけよう、予測不可能な社会に立ち向かうために。



情報とはノイズが転化したもの。100のノイズから複数の意味のある情報が生まれる。だから教師の役目は、ノイズの発生装置を意図的に自

分を運び、異質な存在を身近に置くことで情報生産性は拡大できる。東大生に「ご異見は?」と問うと「別に」と返ってくるのは、彼らがこれまで同調圧力に屈してきたからで、高校教師のせいでもある。



## 「第23回全国障害児学級・学校学習交流集会 in 愛知」



1月6日(土)7日(日)に全日から障害児教育に関わる仲間が愛知に集まり、学び交流しました。

熱気と感動に包まれた「全体会」竹沢清さんの記念講演!

会場の刈谷産業振興センターに参加者が続々と集まり、県立名古屋屋学校卒業生と先生による手話ロックバンド「BRIGHTEYES support」のオープニングで盛り上がりました。

記念講演では、愛知の竹沢清先生(元ろう学校教員)が「子どもの悩みねがいに出会って、私たちは教師になつていくー実践と運動を通して語る」をテーマに話されました。竹沢先

私も勤務校で同僚と話します。教育方針や求める生徒像はそれぞれの学校で多少は異なるため、生徒の実態に合わせた指導が求められます。夜も同僚の方と、授業や生徒指導などについてたくさん話をしました。実践経験の豊富な方ばかりですが、一歩ずつ前に進んでいきたいです。

生がこれまで出会った子どもの話からは、子どものねがいを見る私たちの目の育ちによつて、子どもの内面が豊かにわかつてくること、そのためには実践記録を書いたり仲間と検討したりする大切さを、改めて感じました。

また、不就学の時代から養護学校義務制実施、高等部希望者全員入学、マンモス校解消に続く歴史や、管理教育との闘いについても語られました。実践と運動のどちらもがんばって歴史を切り拓いてきた私たちの組合の「誇り」を感じました。